



失敗する覚悟を持つ

岩手県立農業大学校 校長 菊池 徹哉

岩手県立農業大学校の本科課程を修了した43名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが晴れて卒業の日を迎えられたのは、何よりも皆さん自身の努力と研鑽の賜物ですが、ご家族など身近な方々の支え、指導に携わった担任や教授、そして友人からの助言や励ましも無くてはならないものであったことを忘れないでください。

さて、皆さんは岩手県立農業大学校で学んだことを活かして、4月から社会人として、また、学生として新生活を始めますが、就農や就職、そして進学が、皆さんのゴールではないでしょう。

これから自らの夢の実現に向けた本当の意味での「第一歩」を歩み始めることになるのです。

その際、心に留めておいて欲しいことがあります。

それは、「失敗を恐れず、**失敗する覚悟を持つ**」ということです。

失敗しないように生きることは、挑戦しない生き方を選ぶことになります。

挑戦しない生き方を続けるのであれば、その先に栄光は無いのです。

黒人として初の南アフリカ大統領になったネルソン・マンデラの言葉に次のようなものがあります。「生きる上で最も偉大な栄光は、決して転ばないことにあるのではない。転ぶたびに、起き上がり続けることにある」と。

卒業生のみなさんは若い。何度失敗しても起き上がって、挑戦してください。

必ずやその先に栄光が見えてくるはずですよ。

また、広い大海原に漕ぎ出していくみなさんの前途は洋々としていますが、時として困難なことに遭遇することもあるでしょう。その際は、この岩手農大で過ごした2年間に磨いた己の「知識と感性」を遺憾なく発揮して、それぞれの道を力強く切り開いていくことを心から祈っています。

令和3年度卒業式挙行



学生自治会長、遠藤巧夢さんの送辞

令和4年3月9日に、令和3年度の卒業式が挙行され、本科生52名（農産経営科7名、野菜経営科11名、果樹経営科5名、花き経営科5名、酪農経営科7名、肉畜経営科8名）に卒業証書が授与されました。

校長賞等の表彰、校長式辞、知事告辞、来賓祝辞の後、在校生代表遠藤巧夢さんからの送辞、卒業生代表千田朋実さんからの答辞、前学生自治会長谷川瑛希さんから卒業記念品の贈呈がありました。

卒業生がそれぞれの道で活躍されることを在校生・職員一同大いに期待しています。



前学生自治会長、谷川瑛希さんから記念品贈呈



卒業生代表、千田朋実さんの答辞



決意を新たにした卒業生一同

卒業生からのメッセージ

【農産経営科】 私は岩手県立農業大学校に入学して多くの事を知りました。実習では、事例研修や農家派遣実習等を通じて農業経営について深く学びました。また、卒業研究では、結果から自身の考えを持つことができました。これからも農業に貢献できるように地元で努力していきたいと思います。教職員の方々、経営科の皆さん2年間ありがとうございました。（佐々木）



【野菜経営科】 私の農大生活は多くを学び、多くの思い出が詰まった2年間だったと思います。有馬先生をはじめ、いろんな方から授業や実習を通じて農業の知識を身につけることができました。

新しい生活は、大変なことや辛いことがあるかもしれませんが、ここで過ごした2年間を思い出して、頑張っていきます。（千葉）



【果樹経営科】 農大では楽しい仲間たちと共に充実した日々を過ごしました。果樹を中心に農業について多くの知識と技術を身につけることができました。これからは一農業者としてそれぞれの道を進んでいきますが、今後も農大での出会いを大切に共に農業を盛り上げていきたいです。浅川先生をはじめ、私たちを支えてくださった方々、2年間ありがとうございました。（千田）



【花き経営科】 私たち花き経営科は、個性的なメンバーが集まり、講義や実習、事例研究、フラワーデザインを通して、専門的な知識や技術を学ぶことができました。とても充実した学生生活でした。卒業後は、それぞれが決めた道に進みます。農大で培ったことを活かし、自信を持って、頑張っていきます。2年間、本当にありがとうございました。（菅原）



【酪農経営科】 お金を稼ぎたいという思いで入学し、長かった2年間が過ぎました。農大では、様々なトラブルもありましたが、なんとか乗り切ることができました。卒業後は実家で就農し、酪農家として頑張っていきたいと思います。

川畑先生をはじめ、たくさんの先生方にお世話になりました。2年間ありがとうございました。（大上）



【肉畜経営科】 私たち肉畜経営科の8人は、個性豊かなメンバーがそろっており、2年間楽しく過ごすことができました。農大では、牛に関する知識と技術を身に付けることができ、充実した学生生活を送ることができました。特に、堀間先生、佐々木先生をはじめ、畜産学科の先生方には2年間大変お世話になりました。ありがとうございました。（阿部）



プロジェクト学習の成果発表!!

本校教育の主要な柱の一つであるプロジェクト学習の成果を発表する卒業研究成果全体発表会を12月16日に開催し、本科2年各経営科から選ばれた代表11名が1年間取り組んだ研究の成果を発表しました。

発表会は、本科2年の学生から選出された運営委員によって進められ、県農業研究センターの中南博所長を審査員長として、農業農村指導士協会、農業法人協会や県の農業関係機関等から選任された審査員により厳正な審査が行われ、最優秀賞1名、優秀賞2名が選ばれました。



最優秀賞

大粒種ぶどうの極小房栽培による安価販売および極小房を用いた房ごと干しぶどうの商品化の検討

果樹経営科2年
小野寺 日和

1 課題選定理由

消費者ニーズの高い大粒種ぶどうの安価販売を目標に、シャインマスカットで成果が得られている「極小房栽培」の他品種への適応性を検討した。また、高級イメージの強い「房ごと干しぶどう」について、極小房を用いた安価な商品の開発を検討した。

2 結果

- ・「ハニーブラック」「藤稔」の極小房適応性を確認し、収益性を考慮してもワンコイン（500円）以下での販売が可能であることを明らかにした。
- ・極小房の房ごと干しぶどうを試作し、商品名（小房日和）や商品パッケージ、ターゲット、価格など商品化に向けたイメージを具体化できた。



写真1 極小房ぶどう
(ハニーブラック)



写真2 房ごと干しぶどう
「小房日和」

3 考察

極小房栽培に干しぶどうの加工販売を取り入れることで、より収益性の向上が期待できると考えられた。



優秀賞

環境制御温室における中玉トマト栽培の省力化

野菜経営科2年
吉田 真大

1 課題選定理由

就農後、経営の柱に中玉トマト栽培を考えており、2~3人で作業するには管理や収穫調整作業などの省力化が必要である。そこで、房採り収穫による作業の省力化を検討した。

2 結果

- ・房採りの収量は個採りに比べて裂果などが多くなり0.2 t 少なかった。
- ・房採りの収穫作業時間は6~8果をまとめて収穫するため176.7時間となり、個採りより約73%省力化が図られた。

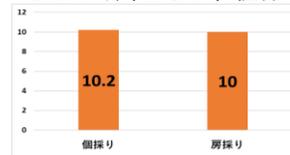


図1 商品果収量 (t/10a)



図2 収穫作業時間 (hr/10a)

3 考察

房採りは個採りと比較して収量は少ないが、作業時間が短縮されたことから収益性が高くなった。このことから、房採りは収穫方法として有効と考えられた。



優秀賞

黒毛和種における肥育方法の違いが肉質に与える影響

肉畜経営科2年
君塚 美月

1 課題選定理由

牛肉に対する消費者のニーズは多様化しており、霜降りの牛肉を好む人もいれば、赤身の牛肉を好む人もいる。赤身の牛肉の生産には経産牛の肥育や放牧肥育が向いていると聞いたことから、経産牛の肥育や放牧肥育により、どのような牛肉が生産できるのかを調査した。

2 結果

放牧のみの放牧区、牛舎内で濃厚飼料多給の舎飼区、放牧と舎飼を組み合わせた混合区で調査を行った結果、BMSナンバーは全ての区において3または4となり、赤身の牛肉となった。また、牛肉の硬さの指標であるせん断力価は、放牧区の値が最も高く、硬い牛肉となった。



写真1 放牧区の枝肉断面



写真2 舎飼区の枝肉断面

3 考察

食味評価では、放牧区の牛肉は舎飼区の牛肉よりも硬いにもかかわらず、それを好む人がおり、経産牛の肥育や放牧肥育をした牛肉を好む人もいることが分かった。

東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会

1月18～19日に東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会が、記録動画方式により開催されました。本校からは「意見発表部門」に肉畜経営科1年の遠藤花凜さん、花き経営科1年の吉田詩音さんが、「プロジェクト発表部門」に、果樹経営科2年の小野寺日和さん、野菜経営科2年の吉田真大さん、肉畜経営科2年の君塚美月さんが、練習を重ねた発表動画を提出しました。審査の結果、残念ながら入賞はなりませんでした。5人とも努力の成果が表れたすばらしい発表でした。

「第32回ヤンマー学生懸賞論文・作文」で最高賞の金賞を受賞！



第32回ヤンマー学生懸賞論文・作文の「作文の部」で、本校果樹経営科2年の千田朋実さんが、全国から寄せられた478点の応募の中から最高賞である「金賞」を受賞しました。

千田さんの作品「農業に恩返し」は、高校卒業後に進学した看護学校で自身の将来に悩んだ末、農業に魅力を感じて岩手農大に入学。さらに植物病理学を学びたいとの思いから岩手大学農学部の編入試験に合格し、自分の夢に向かっていくという経緯が大変素直に書かれていることが高く評価されたようです。

作文は「遠回りした経験は私の財産です」という言葉で結ばれており、仕事や進路を真剣に考え抜いて行動したことが伝わってきます。

4月から新たな道に進む千田さんの今後の活躍を期待しています！

GAP家畜・畜産物の認証を取得！ ～県内教育機関で初めて～



本校畜産学科は、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理に取り組んでいる農場であることが認められ、令和3年11月24日付けでJGAP【家畜・畜産物】の認証（認証品目：乳用牛・生乳、肉用牛）を取得しました。

これは、県内の教育機関で初めて乳用牛・生乳、肉用牛の3品目での取得となります。

このJGAPの認証取得は、農場HACCP認証によるシステム認証と併せ、高度な技術と経営感覚を身につけた学生の育成、並びに、消費者へ安全な生産物の提供に努めてまいります。



雪桜並木（令和4年1月19日撮影）

～ 今後の主な行事予定 ～

- 4月 6日（水）始業式
- 4月 7日（木）新入生入寮
- 4月 8日（金）入学式
- 4月11日（月）新入生ガイダンス
- 4月13日（水）学生健康診断
- 4月28日（木）全校ガイダンス
- 5月19日（木）学生自治会総会
- 5月20日（金）父母の会理事会
保護者面談